

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス つむぎ		
○保護者評価実施期間	2025年1月12日		～ 2025年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2025年1月12日		～ 2025年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・完全個別による支援 →一人ひとりの発達段階や課題に応じた個別プログラムを実施しています。	・一人ひとりに合わせた目標設定 →発達の段階を踏まえつつ、その子らしさを大切にした目標設定をしています。	・評価の見える化 →発達の変化や成長をより分かりやすく示せる仕組みを整えます。
2	・集中できる環境設定 →個別空間で支援をおこなうことで、落ち着いて課題に取り組める環境を整えています。	・視覚、構造化支援の活用 →見通しを持てるよう、スケジュール提示や課題の構造化をおこなっています。	・家庭支援の強化 →過程で実践できる関わり方の提案を充実させます。
3	・柔軟なプログラム調整 →その日の状態や様子に応じて内容を調整し、無理のない支援をおこなっています。	・保護者へのフィードバック →支援内容や取り組みの様子を具体的に伝え、成長の共有ができるよう心がけています。	・職員の専門性の向上 →発達支援等に関する研修参加を継続します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・集団経験の機会が少ない →個別支援が中心のため、集団場面での経験が限られます。	・個別特価型の支援形態 →構造上、集団活動を入れにくい体制です。	・集団的要素の補完 →必要に応じてペア活動等を検討します。
2	・支援時間の制約 →支援時間内で取り組める内容に限りがあります。	・利用児童数の安定確保 →個別支援型であることから利用枠が限られており、安定した利用につなげる工夫が課題です。	・支援計画の効率化 →記録様式の見直しにより、業務時間を確保します。
3	・保護者支援の時間確保 →活動についての振り返り時間が十分に取れない場合があります。	・業務量の増加 →記録や評価作業、その他の事務作業に時間を要しています。	・フィードバック時間の確保 →説明時間を意識的に設け、家庭連携を強化します。